

防犯に係る現状と課題の整理について（案）

【現状等】

近年の犯罪情勢

- ・近年の刑法犯認知件数は減少傾向（R2年の市内の刑法犯認知件数は、555件 過去10年間のピーク時（H23）の1,290件から、約4割減少）
- ・近隣市との比較では、本市の犯罪率は低い
- ・H29年2割台であった検挙率はこのところ約3割台で推移
- ・刑法犯認知件数の約7割が窃盗犯
- ・窃盗犯では、自転車盗、侵入盗、車上ねらいが多く発生しており、特に街頭犯罪では自転車盗が半分以上を占めている
- ・近年の特殊詐欺による被害が高止まり傾向（一方で未然防止件数は増加傾向）
- ・犯罪被害者の年齢をみると、高齢者が最も多い（約2割）
- ・子どもに対する声かけ事案は減少に至らず発生している
- ・犯罪発生場所別では住宅、駐車場・駐輪場での件数は減少傾向にあるが、発生場所の大きな割合を占める（昨年との比較では住宅侵入盗増加）

市民の意識

- ・「防犯体制の強化」に関する施策は、満足度が低い一方で重要度は高い（まちアン）
- ・「防災や防犯にすぐれた安全で安心なまち」であって欲しいが2割、「犯罪や事故が少ない」まちのイメージを持っているが4割（若者調査）
- ・地域の自主的な防犯活動の組織並びに活動率は増加しており、防犯活動の必要性を感じている市民は多い

環境の変化

- ・地域での犯罪抑止力低下に繋がる地域社会の連帯感の希薄化 など

現計画の施策における課題

- ・防犯上配慮すべき事項等の反映（防犯カメラの整備推進）

視点  
考え方

●市民・地域の防犯力

- ・刑法犯認知件数を増加させない
- ・地域の防犯活動による市民の不安感の改善等
- ・各主体の取組を、より効果的で相乗効果が期待できるようにする

●市民に身近な犯罪や被害に遭いやすい犯罪弱者を守る

- ・市民に身近な窃盗犯の発生が多い
- ・（まちアン）から身近な犯罪に対する不安感が高い
- ・子ども、高齢者が被害に遭わないための対策強化が必要

●生活環境等を物理的に犯罪の起きにくい状態にする

- ・防犯上のハード面での対応

【課題】

★市民一人ひとり、地域の防犯力の強化に向けた取組

市民一人ひとりの防犯意識の向上

市民一人ひとりの防犯力の向上は最も重要であるという認識のもと、防犯意識や防犯力を高め、主体的に防犯対策に取り組む必要がある

防犯活動の活発化

自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、その活動の継続・充実を図るとともに、市民誰もが防犯活動に参加するきっかけを作るなど、活動の活発化を図る

連携体制の充実

安全で安心なまちづくりをより効果的に進めるため、各主体が連携・協力を深め取り組む

情報の発信と犯罪被害への不安感の軽減

効果的に犯罪発生・防犯情報を発信し、身近な犯罪の発生を抑制することで不安感を取り除いていく  
（最新の手法や危険な場所、行動を知ることで被害を防ぐ タイムリーな情報発信と啓発活動）

★子ども、高齢者の犯罪弱者に対する取組

子どもや高齢者を犯罪から守る

犯罪に巻き込まれやすい子どもや特殊詐欺等の被害に遭いやすい高齢者の安全対策に取り組む

規範意識の醸成

また、加害者にもならないよう安全教育等を通じた子どもの規範意識を醸成する

★身近な犯罪の未然防止に向けた取組

認知件数の多い自転車盗、住宅侵入盗への対策

施錠等の対策促進に向けた啓発を強化する

★環境の整備の取組

防犯に配慮した環境の整備

暗がりや死角を解消し市民が安心して生活できる環境の整備を進める

●これまでの取組の継続性を確保する観点を踏まえ、計画の根幹部分は継続

●市民一人ひとり、地域の防犯力を強める取組の充実、促進

●市民の安心感を高める取組の充実、促進